

# 麻 醉

科目責任者 山 口 重 樹  
学年・学期 3 学年・3 学期

## I. 前 文

本科目では以下の点に注して学習すること。

1. 麻酔科学の習得には生理学、解剖学、生化学、薬理学、公衆衛生学などの基礎医学の知識が必要であり、さらに周術期管理に際しては、内科的あるいは外科的知識も要求される。
2. 医療行為の基本である呼吸管理、循環管理など、将来の医師としての臨床実践に役立つ内容の講義も行うので、積極的に受講すること。
3. 講義内容は、周術期管理に必要な以下の項目が含まれる。
  - 1) 各種薬剤（鎮静薬、鎮痛薬、筋弛緩薬、循環作動薬など）
  - 2) 周術期に実施される区域麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔など）
  - 3) 呼吸整理、気道管理、気管挿管、人工呼吸、分離肺換気など呼吸管理
  - 4) 循環生理、輸液・輸血、循環作動薬、体外潤なんだの循環管理
  - 5) 危機管理医学（医療安全）

## II. 担当教員

教授 浅井 隆 獨協医科大学埼玉医療センター 麻酔科  
教授 荒井 丈郎 獨協医科大学埼玉医療センター 麻酔科  
教授 濱口 眞輔 獨協医科大学 医学部 麻酔科学  
教授 山口 重樹 獨協医科大学 医学部 麻酔科学  
准教授 藤井 宏一 獨協医科大学日光医療センター 麻酔科

## III. 一般学習目標

・総合試験、卒業試験、国家試験に対応すべく、「医師国家試験出題基準」に従って、周術期管理に必要な生理学、解剖学、生化学、薬理学、公衆衛生学などの基礎医学の知識の重要性と臨床への応用について学習する。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 周術期管理に必要な生理学、解剖学、生化学、薬理学、公衆衛生学などの基礎医学の知識を整理、理解する。
- 2) 医療安全における危機管理医学としての麻酔科学の意義を理解する。
- 3) 周術期の様々な事象に対する危機管理能力を高める。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	1	8	金	5	麻酔科学総論 (周術期管理に必要な薬の知識を含む)	濱口 眞 輔	1
2		8	金	6	区域麻酔 (脊髄くも膜下麻酔, 硬膜外麻酔を含む)	藤井 宏 一	1
3		13	水	2	医療安全 (危機管理医学として麻酔科学)	山 口 重 樹	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
4	1	13	水	3	周術期管理に必要な呼吸整理と呼吸管理	浅 井 隆	1
5		13	水	4	周術期管理に必要な循環整理と循環管理	荒 井 丈 郎	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（）内は評価の割合。

試験成績（60％）出席（20％）、態度（20％）を加味して総合評価する。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 教科書：書籍名、出版社名
- 2) 図 譜：書籍名、出版社名

シラバスと講義スライド配布資料を中心に学習する。参考書

- 1) 古谷 仁 監修, 稲田 英一 / 森崎 浩 / 西脇 公俊 編集「標準麻酔科学第7版」医学書院
- 2) M.A.Gropper, N.H.Cohen, L.I.Eriksson, et al. 「Miller's Anesthesia, 10th ed., in 2 vols.」 ELSEVIER
- 3) Geoffrey K. Lighthall (編集), David C. Borshoff (著), 山口重樹 (翻訳), 木村嘉之 (翻訳), 高薄敏史 (翻訳) 「麻酔危機管理マニュアル」メディカルレビュー社
- 4) 濱口眞輔, 「この一冊でわかる! 麻酔科・ペインクリニック実践ハンドブック」南江堂

#### VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：臨床棟9階麻酔科学講座研究室 月～金曜日 9：00～16：00（要：秘書を介したアポイントメント）

#### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

#### X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業試験や国家試験に出題された麻酔科学に関する問題、麻酔科学の定期試験の問題を必要に応じて解説する。

## XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（120分）：周術期管理に必要な生理学，解剖学，生化学，薬理学，公衆衛生学などの基礎医学で学んだ知識を復習しておく。

予習用の資料を配信するので、必ず予習すること。講義当日予習資料よりミニテストを行う。

事後学習（60分）：周術期管理に必要な麻酔科学，呼吸管理，循環管理，区域麻酔，危機管理について復習，知識を習得する。

## XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照のこと。なお，シラバス別冊に記載がない場合，要点を確認しておくこと。